

本研究会では、「読み解く力をつけるための指導法の工夫」というテーマで研究を進めました。研究の成果をより多くの人にわかりやすく伝えるため、Q & A方式で、以下のように研究の概要をまとめることにしました。

Q どうして「読み解く力」を研究することになったのですか？

A 本校の児童の実態を話し合った中で、

- ・図や表を読み取る力が不足している
- ・じっくりと考察する（考える）力が不足している

という課題が浮かび上がってきました。この課題は、PISAの調査や都教委の調査からも出ており、今日的な教育課題の1つでもあったため、「読み解く力」を付けるための指導法について研究することになりました。

Q 「読み解く力」っていったいどういう力なのですか？

A 「読み解く力」という言葉は、東京都教育委員会が「PISA型読解力」との関連性をはかりつつ、東京都の児童・生徒に全教科で育むことをねらい、出された言葉です。都教委では、「読み解く力」について以下のように定義づけています。

**「文章や図表等から必要な情報を正確に取り出し、比較・関連付けて読み取り、その意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」**

本校では、都教委の定義をベースとして、以下のように定義づけました。

**「文章や図表等から必要な情報を読み取り、それらを整理し、自分なりに理解、解釈し、そのことを自分の言葉で表現する力」**

Q 「読み解く」とは、どのような段階で行われるのですか？

A 都教委では、読み解く段階を以下の3つの段階に分けて考えています。

- ①必要な情報を正確に取り出す
- ②比較・関連付けて読み取る
- ③意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する

本校では、3年間の研究を経て、次のような4つの段階で読み解く力を考えています。

- ①「文章や図表等、学習対象をなるものから読み取る。（発見する）」  
→発見・読み取り・蓄積の段階
- ②「読み取ったものを整理・分析・比較・関連づける。」  
→取捨選択・整理の段階
- ③「自分なりに解釈し、既習知識と結びつけて再構成する。（生かす）」  
→解釈・再構成の段階
- ④「相手に伝わるように表現する。自分なりに活用する。」  
→表現・活用の段階

Q 研究の教科は何ですか？

A 1、2年生は国語、3年生以上は社会で行いました。音楽や図画工作でも行いました。

Q なぜ、国語と社会なのですか？

A 研究初年度の平成23年度は、1、2年生は算数、3年生以上は社会で行いました。

その理由は、子供たちの「図や表の読み取りが苦手」という実態に基づいて始まった研究でしたので、「図や表の読み取る」力を育成するために算数、社会を研究教科にしました。研究を進めていくうちに算数と社会では、「読み解く力」を付けるための指導法に違いがあるのではないかとということがわかりました。そこで、平成24年度は、社会での「読み解く力」を付けるための指導法の工夫ということを研究の中心に据え、その土台となる力を育むということをねらいました。生活では教科の特性上、「読み解く力」というものがなじまないという意見があったために低学年では、国語を基本として研究を進めることにしました。

Q 実技教科でも「読み解く力」とは育成できるのですか？

A 本校の考え方としては、児童が、あるねらいをもって学習する時には必ず、「読み解く」活動をしているととらえています。図画工作や音楽の「読み解く」は、社会の「読み解く」とは、若干性質を異にする部分もありますが、その教科の特性にあった「読み解く力」は、身に付けさせられると考えています。

Q 「読み解く力」をつけるために具体的にどのように指導法を工夫したのですか？

A たとえば、ステップ1の情報を収集する段階では、体験活動を取り入れるなどの工夫をしました。

また、地域の方を招いて昔の道具について教えていただいたり、コンビニエンスストアの方にインタビューしたりするなど、子供たちが意欲的に情報を集められるように工夫しました。

また、調べるための方法や調べ方を載せた本校独自のテキストも作成して活用しました。

ステップ3では、授業の中で、児童が客観的に自己内対話ができるような工夫や、自己内対話がまだ十分でない児童のために、もう1人の自分の役割を友達や教師が果たせるような交流活動を取り入れた指導法を工夫しました。

昨年度の6年生の実践では、インタビューという学習形態をとり、児童が歴史上の人物の立場に立って考えることにより、自己内対話の誘発をねらいました。4年生の紙芝居でのまとめるとい活動もいろいろな立場の人の台詞を考えることによって、より客観的に事象をとらえさせるという手法をとりました。

Q 低学年では、どのような指導をしているのですか？

A 低学年については、こういった3年生以上での力の土台となる「内語(内なる言葉)」

の育成をねらい、「語彙を増やす」「黙読からの解釈できるようにする」「人の気持ちを考えられる」「友達と意見が交換できる」ための効果的な指導法を探求してきました。

具体的には、一枚の絵から様々な情報を読み取り、それを基にして作文を書き、友達と読み合う中で、新しい「言い方」や「表現方法」を身に付けていくという実践や、俳句の作成を通して、豊かな語感を育てる実践をしました。

#### **Q 実技教科では、どのような指導をしているのですか？**

A 実技教科については、その教科の特性を生かして、児童の感性や技能を伸ばしながら、楽曲や素材、題材のもつ特徴を受け止め、自分なりに解釈した上で表現できるような指導法を工夫してきました。

図工では、素材の特性を読み取って、それを生かしながら、自分の表したい世界を表現していく実践をしました。制作過程で、友達と意見を交流したり、自分の作品を客観的に鑑賞する時間を設ける等の工夫をしました。その結果、児童は、自他の作品の特徴を読み取り、それを自分の作品に生かし、自分のテーマに近づけるようになってきました。

音楽では、アジアの音楽の特徴を感じ取り、自分たちでアジアンメロディを創作するという実践を行いました。アジアの音楽の特徴をつかむ段階においては、単に音楽を聴くという活動だけではなく、映像を見たり、ジャスミンの花のにおいをかいだり、ジャスミン茶を飲むなど五感を使って豊かに感じられるような工夫をしました。また、創作段階においては、即興的な表現から自分の意図をもった表現に高まっていけるようにスモールステップで行えるように活動計画を工夫しました。児童は、グループ内での意見交換の中で、子供たちは、よりテーマに近いリズムや音選びができるようになりました。

#### **Q 日常の学習の中で取り組まれていることはありますか？**

A 「読み解く」力は、すべての教育活動の中で育むものですから、どの教科でも、意識して指導法を工夫しています。本校独自の取組では、毎週木曜日に「パワーアップタイム」という時間を8：15から20分間、設定しています。

パワーアップタイムでは、1, 2年生は、語彙を増やすような「言葉遊び」や「俳句」などを年間を通して計画的に行っています。3年生は、「グラフや表の読み取り」の基礎を毎週行っています。

4年生以上では、「説明的文章の読み取り」「統計資料の読み取りや活用」「対話・話し合い」というテーマで、2ヶ月から3ヶ月のローテーションで担任が交代し、系統的に指導をしています。

「対話・話し合い」に関しては、話型を含め、3学年共通の本校独自のテキストを活用しています。

こうした活動から、「読み解く力」の基礎が育まれていると考えます。

#### **Q 研究の結果、どのような成果が現れていますか？**

A この3年間の研究の中で、「読み解く力」というものは、思考力と密接な関係があり、様々な力と関連しているものだということがわかりました。従って、「何パーセントの児童に「読み取る力」が身に付きました。」というようにはっきり数値化して表す

ことは、難しいのです。

しかしそんな中でも以下のような成果を見出すことができました。

**【児童】**

- 4月と11月に行った実態調査から、2つの資料を関連付けて読み取れる児童の割合がどの学年も増えた。
- 対話等の交流活動を通して、自分の考えを修正したり、深化させたりすることができるようになってきた。
- 理解したことを自分なりにわかりやすく他者に伝える方法が身に付いてきた。

**【教師】**

- 「読み解く力」をつけるための4つのステップを意識して、授業を組み立てていく中で、児童に学習課題を読み取らせるために有効な手立てが共通認識できた。
- 実技教科においても指導法を工夫することによって児童に「読み解く力」を身に付けさせることができることがわかった。

**Q** どんな課題が残っていますか？

**A** 研究を進めれば進めるほど、「読み解く力」というものは、奥深く、解決しなければならぬ課題が数多く残されました。

その中で、特に以下のような課題を挙げておきます。

**【児童】**

- 「読み解く」ためには、基礎学力が必要不可欠であり、語彙力や文章読解力をさらに伸ばしていく必要がある。
- 高学年においては、自己内対話力にかなりの個人差が見られる。自己内対話力をもっと伸ばしていく必要がある。

**【教師】**

- 社会科以外の教科でも「読み解く力」を付けるための学習ステップを再度検討する必要がある。
- 教師一人一人の授業力を更に向上させると共に、個人差を解消するための小規模校における組織的な指導体制や研修体制を構築していく。

# 研究構想図

